



学生が自ら 地域で学ぶ

近江楽座

OHMI RAKUZA

START BOOK

SDGsの達成に向けた「地域教育」

SDGsについて

2015年の国連サミットで採択された世界共通の目標です。限られた地球上の資源を使い果たすことなく継続的に利用し、誰一人取り残すことなく、環境・社会・経済におけるさまざまな課題の関係性にも考慮して、2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットが設定されています。



CHECK!

近江楽座公式サイト

各プロジェクトの最新情報や楽座人物図鑑など近江楽座についての情報が充実しています。



スマホの方はこちら!

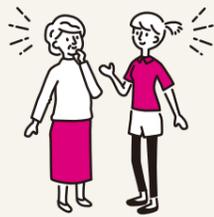
<http://ohmirakuzo.net>





OHMI RAKUZA

近江楽座



近江楽座は「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」を
モットーに掲げる滋賀県立大学の学生教育プログラムです。

学生たちは地域の方々と一緒に活動することで、

学内では学べないことを体験します。

学生らしさを生かして地域に学び、育ち、貢献する。

そんな学びの場づくりを目指しています。



近江楽座プロジェクト [2020年度]

01	BAMBOO HOUSE PROJECT 竹林整備を通して、地域を育む	詳しくは P.04
02	未来看護塾 地域みんなの健康守り隊!	
03	あかりんちゅ 廃棄されるろうそくを用いてエコでスローな夜を	
04	とよさと快蔵プロジェクト 古民家改修でまちを元気に!	
05	ボランティアサークルHarmony 障がい児・者とその家族の充実した余暇活動を支援	詳しくは P.06

06	政所茶レン茶 お茶づくりから地元の文化や暮らしを学び、伝える	詳しくは P.07
07	滋賀県大生き物研究会 琵琶湖内湖の生態系を守ろう	
08	かみおかべ古民家活用計画-SLEEPING BEAUTY- 「地域よし×学生よし×家主よし」の古民家活用プロジェクト	
09	廃棄物バスターズ 目指せ!リサイクル社会!	詳しくは P.08
10	フラワーエネルギー「なの・わり」 休耕田を活用したバイオディーゼルの精製	
11	座・沖島 沖島でまなぶ・まじわる・ささえる	

POINT 1 学生主体で活動

学生ならではの視点で地域の課題や魅力を見出し、プロジェクトを発足。厳正な審査で採択されたプロジェクトは、経費や教育指導等の支援のもと活動します。

POINT 2 幅広い分野の地域課題

これまで培ってきたノウハウや地域とのつながりを生かし、さまざまな分野の地域課題に取り組んでいます。



活動テーマ例

- 子ども
- 教育
- 福祉
- 健康
- 生活文化
- 伝統
- 調査
- 環境
- 防災
- 復興支援
- まちづくり
- ものづくり

POINT 3 多様な活動形態 目的や内容など、多様な地域活動に合わせたプロジェクトのタイプがあります。

▶ Aプロジェクト／学生主体型プロジェクト SDGsの視点も踏まえ「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動を募集します。



新規プロジェクト・継続プロジェクト
17年間で延べ380のプロジェクト(Bプロジェクトを含む)が活動しています。

田の浦ファンクラブ学生サポートチーム
東日本大震災で津波に襲われた宮城県歌津地区田の浦で、まちづくりをテーマにした復興支援・交流イベントの企画・運営を行っています。



Sプロジェクト
活動資金を必要とせず、これまでの実績をもとにステップアップを目指すプロジェクト。

あかりんちゅ

お寺などからやむなく廃棄されることになったろうそくを回収し、それを再利用したキャンドルの販売や、キャンドル作り教室、キャンドルナイトを行っています。また福祉作業所にティールイトキャンドルの製造を委託し、福祉に貢献しています。

▶ Bプロジェクト／地域協働型プロジェクト

自治体や企業、団体などから依頼のあった課題の中で、学生が中心となって取り組むことがふさわしいものについて、学生主体のグループを募集。指導教員と地域共生センターおよび依頼先とが協働でプロジェクトに取り組みます。



POINT 4 大学発地域貢献の先進的な取組として高く評価

ボランティアサークルHarmonyが「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受賞するなど、近江楽座の取組は学外でも高く評価されています。



陶器研究室+たけともミライ
「第9回毎日地球未来賞」の奨励賞を受賞



ボランティアサークルHarmony
「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰 伝達式



12	政所茶レン茶 お茶づくりから地元の文化や暮らしを学び、伝える	詳しくは P.07
13	とよさだプロジェクト 耕作放棄地での野菜作りで地産地消促進を目指す	
14	おとくらプロジェクト 人と人をつなぐコミュニティスペース	詳しくは P.03
15	Taga-Town-Project 学生目線で多賀のいいところを発信	詳しくは P.05
16	スチューデント・キュレーターズ 地域文化財を救え!我ら学生学芸員!	
17	田の浦ファンクラブ学生サポートチーム 「復興」のその先へ。まちづくりをテーマにした復興活動	

18	たけともミライ 宮城県気仙沼市で「竹の会所」とともに歩む
19	Jesuit House Project 建築遺産を生かした地域拠点づくり
20	木興プロジェクト 建築で被災地の復興支援・まちづくりを目指す
21	県営開出今団地コミュニティ再生プロジェクト 学生が住み、生かして、つながりを広げる



おとくらプロジェクト

活動開始年：2010年

メンバー：52名

活動場所：彦根市(高宮町)

関係団体：高宮連合自治会



人と人をつなぐコミュニティスペース

滋賀県彦根市高宮町にある築200年の古民家で、学生が改修してできたコミュニティスペース「ギャラリー喫茶おとくら」の運営を行っています。地域活動への参加やイベントの企画・運営などを通して、高宮の地域活性化を目指しています。

地域の声

おとくら家主・おとくら応援隊長 加藤 義朗 さん

コロナの影響で予定していたコンサートや落語会は中止し、おとくら自体休業せざるを得ませんでした。そんな中でも高宮のためにとオンラインで連絡を取り、積極的に働きかけてくれました。ギャラリーのみの営業で、喫茶は休業の期間が続きましたが、メニューや接客の指導を行いレベルアップ。若い力と継続してきた力がこれからもおとくらの活動を支えてくれると思います。

学生の声

古田 愛佳
(環境科学部 環境建築デザイン学科 1回生)

コロナ禍で先輩や同級生との交流があまりできない中、おとくらの活動はとても大切な時間でした。活動ではコミュニケーションの大切さや、限られた範囲内でも工夫しながら活動し続ける意義を学ぶことができました。おとくらで学んだことを来年の活動やおとくら以外での活動にも生かしていきたいです。



BAMBOO HOUSE PROJECT

活動開始年：2016年

メンバー：63名

活動場所：滋賀県湖南市菩提寺

関係団体：菩提寺まちづくり協議会



竹林整備を通して、地域を育む

放置竹林として問題となっていた湖南市菩提寺区の竹林を、地域の方々と整備。その際に出た竹廃材を再利用して子どもや地域の方々遊び、交流できる建築や空間をつくります。体験を通して、環境保全の大切さを学ぶとともに、地域の人々との交流を深めます。

地域の声

菩提寺まちづくり協議会 浅井 基義 さん

2012年度に地域との協働プロジェクトが始動し、その後近江楽座として活動しているBAMBOO HOUSE PROJECTは今年で9年目を迎えました。菩提寺区の竹林には、毎日のように地元の子どもたちが遊びに来てくれます。そうした中、当初に製作した竹林のシンボリックな建造物(1号機)が老朽化し、安全のために解体することとなりました。大変寂しいのですが、1号機の跡地には、地域の皆さんがつろろげる新たな施設をつくりたいと思っています。学生の皆さんとともに、今後も活動を広げていきたいです。

学生の声

中田 陸
(環境科学部 環境建築デザイン学科 2回生)

自分一人では達成できない、大学ならではの経験をしたい。そうした思いからBAMBOO HOUSE PROJECTに参加しました。主な活動内容は、竹を切ったり、竹の建築物の補修工事など。竹に囲まれながら行う作業はとても心地が良く楽しいです。作業中に子どもたちが入ってきて遊んで行くことがあり、その姿を見ると地域の人のためになっているのだからと感じ、嬉しく思います。





Taga-Town-Project

活動開始年 : 2004年
 メンバー : 5名
 活動場所 : 滋賀県犬上郡多賀町
 関係団体 : YOBISH/桃原プロジェクト/多賀町立文化財センター 他



学生目線で多賀のいいところを発信

学生目線の発想で多賀町の魅力を発見し、町内外に発信するプロジェクトです。多賀の魅力を生かしたイベントを開催したり、地域のイベントに参加・協力したり、WebやSNSで多賀の情報を発信したりと、活動は多岐に渡ります。

地域の声

桃原プロジェクト 代表 中川 信子 さん

かつてスキー場としてにぎわっていた桃原は、現在では過疎化が進み住人は一人に。にぎわいを取り戻すために、江戸時代に名が知られた桃原ごぼうの復活に取り組んでいます。Taga-Town-Projectの皆様には草木染体験などのワークショップやごぼう収穫祭など、イベントの運営や企画に積極的に取り組んでいただき、大変心強かったです。自然に恵まれ、歴史ある桃原の魅力を、これからも一緒に発信していきたいです。

学生の声

久木 絢加
 (人間文化学部 国際コミュニケーション学科 2年生)

イベントなど人を集めることが難しいコロナ禍ならではの取組として、集落に実際に足を運び、多賀をもっと知るための「字巡り」という企画を行いました。活動期間が短く実施できたのは2回だけでしたが、オンラインでミーティングを重ね、少ない人数でも無理なく続けられる活動について意見を出し合うことができました。本当に自分たちが多賀でしてみたいこと、できることは何かを考える貴重な期間となりました。



ボランティアサークルHarmony

活動開始年 : 2004年
 メンバー : 14名
 活動場所 : 学内/彦根市/東近江市
 関係団体 : NPO法人障害者の就労と余暇を考える会 メロディー



障がい児・者とその家族の充実した余暇活動を支援

障がいや有する人と学生が互いに成長することを目的に、「NPO法人障害者の就労と余暇を考える会 メロディー」の支援活動を行っています。また、この活動を通じて地域の方々と交流することで、障がい児・者を支える地域づくりの推進を目指しています。

地域の声

びわこ学院大学 講師 後藤 真吾 さん

一緒に活動してくれるメンバー一人ひとりの力が、夢の実現に向けた大きな支えになっています。今年度のコロナウイルスの緊急事態を受け、対面での会議が難しくなったときに、Harmonyが先導してリモート会議を主催してくれたことで、滞りなく活動を進めることができました。作品展の連続開催やノベルティー作成など、新しい試みが実現できたことは大きな成果です。今後のHarmonyの活躍に期待しています。

学生の声

池山 理帆
 (人間文化学部 人間関係学科 1年生)

Harmonyの定例活動に参加しました。活動を通じて、障がいや有する人々との関わりを学びました。初めは予想外のことも多く、戸惑うことばかりでしたが、障がいをもつ方々と実際に触れ合い活動をともにする中で、障がい児・者の理解をより深めることができました。また、支援者の方々との対話は、自身の視野を広げることにおいて意義深い体験であったと感じています。





政所茶レン茶[®]

活動開始年：2013年

メンバー：32名

活動場所：滋賀県東近江市政所町

関係団体：政所茶縁の会



お茶づくりから地域の文化や暮らしを学び、伝える

希少な在来種の銘茶「政所茶」の産地として古くから知られている東近江市政所町では、過疎高齢化により茶の栽培の困難、後継者不足などの課題を抱えています。そこで学生たちで茶畑を借り、地元農家から指導を受けながら茶づくりや販売を実践し、政所の魅力を発見・発信しています。

地域の声

政所町住民 清水 美紀子 さん

今年はコロナウイルスの影響で活動が制限される中、時間を作って畑に通ってくれて嬉しく思っています。少ない人数での作業で、その分負担も大きかったと思いますが、頑張ってくれました。イベントや販売の機会がなくなったので、その分お茶づくりに集中できたかなと思います。コロナ禍で政所茶をPRする機会が減ってしまったのは私たちも同じです。だからこそ来年は生産者同士一丸となって頑張っていきたいと思います。

学生の声

森井 由希
(人間文化学部 地域文化学科 2回生)

1年の活動を通して、コロナ禍という状況の中でどのようにして自分たちの活動を続けていくか悩みました。なかなか自由に販売に行くことができず、どのように自分たちの商品売っていくか、たくさんのアイデアを出しました。今年1年努力して生み出したものは、これから先の活動で生かせるものだと感じています。



廃棄物バスターズ

活動開始年：2005年

メンバー：16名

活動場所：彦根市／滋賀県内・外

関係団体：社会福祉法人 いしづみ会 他



目指せ！リサイクル社会！

廃棄プラスチックを再利用したリサイクルプランターや、新たなリサイクル製品である雨水タンクに着目し、企業と連携して開発を行っています。就労支援施設と連携したhana-wa活動や清掃活動、一般社団法人滋賀グリーン活動ネットワークにも参加し、地域とのつながりの強化を図っています。

地域の声

社会福祉法人 いしづみ会 八田 尚樹 さん

廃棄物バスターズとペットボトルキャップリサイクル作業所連絡会との活動もあつという間に10年が経ちました。各作業所では社会性を養うことを課題にしており、公共の場所で他の作業所や廃棄物バスターズのメンバーと触れ合うことはとても貴重な機会です。今後の活動の検討については定期的に話し合いの場を設けており、新たな製品や企画の発案などの重要な場面において、柔軟な発想力を発揮してもらっています。今後も協力お願いいたします。

学生の声

永田 裕佳
(工学研究科 材料科学専攻 修士1回生)

2020年度はコロナの影響で、これまで取り組んでいた実地イベントが減った一方、CM出演や地球温暖化防止動画の制作、中学生との清掃活動など、初めての試みを行う機会が多くなりました。新しい挑戦をする中で、明確な目標設定や実行するための入念な事前準備が重要であることを強く実感しました。また、メディアで紹介いただけることが増え、さまざまなかたちで私たちの活動を知っていただき、嬉しく感じます。



滋賀県立大学 × SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

THE UNIVERSITY OF SHIGA PREFECTURE

「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに「地域に根差し、地域に学び、地域に貢献する、人が育つ大学」として独自の教育活動を展開してきた滋賀県立大学。開学以来、持続可能な暮らしにつながる知恵や技法を地域から学び、探究してきました。これらの取組は、今日のSDGsの理念につながる取組でもあります。「地域貢献大学のリーディングモデル」を目指し、持続可能な社会の実現に向けて、ともに学び、育ち、未来を切り拓く拠点でありたいと願っています。



▶ SDGs宣言

世界および地域の持続的な発展に貢献することを目指し、2018年6月に「滋賀県立大学SDGs宣言」を行い、本学のSDGsにかかる取組姿勢を対外的に発信しました。



滋賀県立大学SDGs宣言

- S | 滋賀県立大学は「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに
- D | 誰一人取り残さない持続可能な社会を目指し
- G | グローバルな思考と実践をもって
- s | 世界と地域の発展に貢献します

▶ 地域教育プログラム

本学では、地域課題に応える「未来志向の変革力を身につけた人材」を育成するため、教員や地域人(※)の方による地域教育プログラムを実施しています。高い専門性を身につけ、俯瞰的に物事を見る能力はもちろんのこと、地域での実践を通して現実に起こっている諸問題に創造的に取り組み、変革する能力と態度を養っています。

全学生が学ぶ地域基礎科目「地域共生論」

1年次の全学部生対象の必修科目で、環境科学部、工学部、人間文化学部、人間看護学部の約600人の学生が学部の枠を超えて一緒に学びます。各学部から提供されるテーマについて学生がグループワークを通じ、SDGsの視点を交えて考えるとともに、他者を理解し、共感と豊かな対話を可能とするコミュニケーション力を養成します。



夏期集中講義「SDGsと滋賀のグローバル・イノベーション」

琵琶湖を守り、環境・社会・経済の調和を大切にする滋賀の暮らしをもとに県内複数大学の学生がともにSDGsを学ぶ単位互換科目です。

※地域人：地域活動の実践者で本学の地域教育プログラム履修者に対して指導・助言などを行っていただく方々

▶ キャンパスSDGsびわ湖大会

2020年11月21日に「キャンパスSDGsびわ湖大会」をオンラインで開催しました。大会テーマは「『子ども・若者』と『大人』がともに歩むSDGsへの10年」。SDGs達成に向けて、子どもや若者の柔軟な発想と行動力を、大人の経験とネットワークで支援する大切さを共有することができました。



「子ども・若者」マイプロジェクト活動報告

基調講演：上田 社一氏
(一般社団法人 Think the Earth)

▶ SDGs連続講座

SDGsの視点を持った地域づくり活動のリーダーなど、キーパーソンを育成するワークショップを活用したSDGs連続講座を実施しています。2020年度は、社会課題をテーマにした映画をオンラインで鑑賞し、関連する活動を実践しているゲスト講師のお話を伺いました。参加者の間でも感想や意見を交換する時間を設け、それぞれのSDGsに対する思いを共有しました。



▶ 近江楽座

近江楽座の活動はSDGsの達成に向けた取組と深い関わりがあります。

▶ SDGs出前講座&落語

県内外の行政機関や教育機関、企業などから要望を受けて、学内教職員を講師として派遣し、講演やワークショップを実施。SDGs落語では笑いを通してSDGsを自分ごととして考えるきっかけづくりをしています。



▶ SDGsラジオ

地域教育プログラムに属する「地域デザインD」の授業で、ラジオ番組を制作。地域で活動する人をゲストに迎え、学生がパーソナリティになってお話を伺いました。ラジオ番組を通じて、学生はさまざまな地域活動について学び、ゲストの方はSDGsの視点から自らの活動を見直すことができました。また、リスナーの皆さんはこれまで馴染みのなかったSDGsについて具体的な取組を知る機会となりました。



SDGs達成に向けて 近江楽座専門委員会 委員長 印南 比呂志 (人間文化学部生活デザイン学科 教授)

これからの社会を持続可能にしていくために、学生の皆さんがアクターとして地域に入るとともに多くの課題に向き合っていくことを、滋賀県立大学は全面的にバックアップします。その中で、学び、地域を支える視座を持ち、社会への橋渡しを担う人材として育っていくことを期待しています。本冊子で紹介した近江楽座の活動は学生と地域をつなぐ学びの場づくりなのです。



近江楽座キャラクター
メイメイ